

研修報告書 No 42

研修施設：大月町立国保大月病院

宿毛市沖の島へき地診療所

私は平成 25 年 2 月に高知県幡多郡大月町・国保大月病院にて地域医療研修をさせて頂きました。人生初の四国であり 1 ヶ月と短期間の研修でしたが大変有意義な経験となりました。この実習プログラムの参加のきっかけは私が普段研修を行っている病院にも募集資料が届けられており偶然目を通す機会があったのを機に希望させて頂きました。研修中は普段私が研修しているような大学病院との様々な違いに触れつつも様々な患者の診療にあたることができ非常に貴重な経験となりました。

まず県外で日常医療に従事する立場から見た高知県の地域医療の状況ですがマンパワーの不足・偏重に関しては全国的な問題であります。やはりその点は高知県の医療状況に関しても同じことが言えると思われ。慢性期の医療に関しては私が研修させて頂いた医療機関では概ねカバー出来ているのではと感じましたが、一方で急性期医療に関して搬送体制は整備されていますが改善点はあると思われました。幸い私の研修期間中に経験した緊急性のある疾患は大腿骨骨折などであり骨折単独であれば搬送中に特別な処置や加療などが必要となるかの可能性は低いと思われ。しかしながら母胎搬送や心筋梗塞など 1 分 1 秒単位での速やかな搬送が要求されるような症例などでは(ドクターヘリなども導入・稼働はしていますが飛行規則など制約が様々であり全地域を常時カバーするのは難しいと思われ)ハード面・ソフト面の両方での改善が必要であると考えます。

研修内容に関しては病院の規模が小さいという制約もあり行うことの出来る検査などは制約がありますがその一方で規模の大病院ではソーシャルワーカーなどのコメディカルの方々に任せきりになりがちな家族構成・住居形態などの社会的背景に関しても看護師さん・保健師さんを中心に詳細に把握をされており尚かつそれらの情報を医師・介護ヘルパーさんなどの他職種と上手く共有できており日常の診療に活かしていたことなどは印象的でした。往診では何う患者さん方は多くの方が高血圧や糖尿病などの生活習慣病を抱えてらっしゃいますが症状としては安定されている方が大半です。しかしながら往診の頻度としては 1 ヶ月から 2 ヶ月に 1 回の頻度であり高齢の夫婦のみや場合によっては単独世帯もあり常日頃から生活状況を把握する必要があります。もちろん患者さんのお宅を訪問するのは往診の医師だけではなくデイサービスを行う方々もいらっしゃいますので患者さんの日々の変化を把握することは出来ます。しかしながらそれらの情報を共有することが在宅医療では重要であり各職員間で患者さんの状況共有を実践できていました。

また研修させて頂いた大月病院では町立病院という特色を活かして医療施設と大月町の介護・福祉関係の職員の方々が業務を行う施設が同じ院内に併設されており物理的にも近く定期的に病院職員・大月町職員・地域で介護に従事するヘルパーの方々・介護福祉施設の職員の方々と合同カンファレンスを行いここでは患者さん個々のミクロの単位では把握するのが難しい町全体の人口構成の変化や行政・医療サービスの変化などいわばマクロの単位での変化を皆で共有出来ており地域に根付いた医療・介護を提供できていることを実感

しました。

1 ヶ月間と短期間の研修ではありましたが地域医療研修によって在宅医療など大学病院では経験することができない診療形態を経験できたことや大学病院などよりもより強固な多職種連携体制を経験することができました。(将来的にクリニックなどの開業を考えている方にはぜひとも経験した方が良いのでは?) 一方で搬送体制など地域医療ならではの問題点も経験することができ今後の医療の改善すべき問題点の一つを垣間見ることが出来ました。普段研修を行っている医療機関だけでは経験出来ないような良くも悪くも発見があるのが地域医療研修だと思われます。今後も高知県での地域医療プログラムの継続・ますますの発展をお祈りします。